

管内経済は、各種の 政策効果などから、緩やかながら 回復の動きが広がっている

財務部



その2

管内経済情勢報告



平成十二年四月、財務部では最近の管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

最近の管内経済情勢をみると十二年度の企業の設備投資は前年度を下回る計画となっているものの、公共事業は引き続き高い水準を維持しているほか、住宅建設は前年を上回っており、個人消費は緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

こうした中、観光は引き続き好調に推移しているほか、生産活動は持ち直しの動きが広がっており、十二年度上期の企業収益も増益見通しとなっている。

なお、雇用情勢はこのところ改善の動きが見られるものの、依然として厳しい状況となっている。

このように、管内経済は各種の政策効果などから、緩やかながら回復の動きが広がっている。

個人消費をみると、主要スーパーの売上げは、底固い動きとなっており、百貨店、コンビニエンスストアの売上げは、前年を上回っている。耐久消費財では家電製品販売、新車販売及び中古車販売が前年を上回っている。このように、個人消費は緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

観光についてみると、観光入込客が旅行商品の低価格化や観光関連業界等の誘客活動、サミット効果などに支えられ増加し、十四ヶ月連続で月別の過去最高記録を更新するなど、引き続き好調に推移している。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家及び分譲住宅が住宅ローン減税延長の効果などにより前年を上回っているほか、貸家が引き続き前年を上回っていることから全体では前年を上回っている。

設備投資をみると、十二年度は製造業で前年度を上回っているものの、非製造業で前年度を下回る見込みとなっていることから、全産業では前年度を下回る見込みとなっている。

十二年度は現時点では不確定要素はあるが、製造業、非製造業ともに前年度を下回る計画となっている。

公共事業を公共工事前払保証請負額でみると、全体では過去最高の水準となった前年度を下回っているものの、引き続き高い水準を維持している。

生産活動をみると、建設関連業種では棒鋼は前年を下回っているものの、アルミ型材は順調に推移しており、

セメント及び生コンは引き続き好調に推移している。また、食料品ではビールは前年を下回っているものの、発泡酒、泡盛が順調なほか、食肉加工品は堅調な動きとなっている。このように、生産活動は持ち直しの動きが広がっている。

企業収益は石油、電気ガスを除くをみると、十二年度は製造業、非製造業とも大幅な増益とみていることから全産業でも大幅な増益見込みとなっている。また、十二年度上期は製造業、非製造業とも増益とみていることから、全産業でも増益見通しとなっている。

雇用情勢をみると、完全失業率は、このところ改善の動きがみられるものの、依然として高水準で推移している。

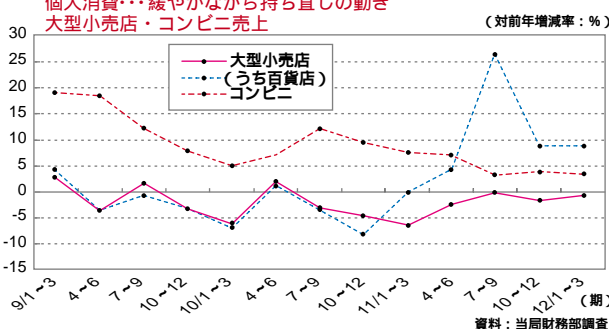
また、新規求人数は情報サービス業を中心に増加を続けており、県外からの受入人数もここに至り下げ止まりつつあるものの、有効求人倍率は引き続き低水準で推移している。このように、雇用情勢はこのところ改善の動きがみられるものの、依然として厳しい状況となっている。

消費者物価は、全体では引き続き安定した動きとなっている。

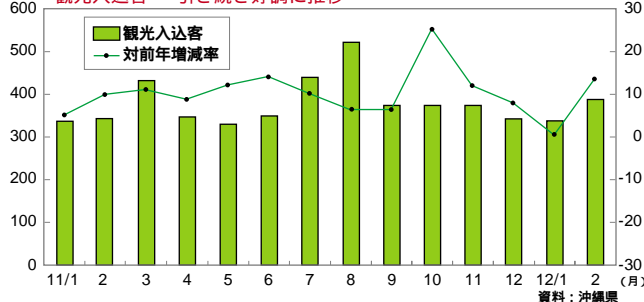
金融面をみると、企業の資金需要は、設備資金や運転資金の一部に動きがみられるものの、全体としては前年をやや下回っている。

企業倒産は、大口倒産の影響もあって負債金額は前年を大幅に上回っているほか、件数もこのところ前年を上回っている。

個人消費・・・緩やかながら持ち直しの動き
大型小売店・コンビニ売上



観光入込客・・・引き続き好調に推移



公共工事前払保証請負額（累計）・・・高水準を維持

